

一 般 質 問 通 告 書

上記の件について、下記のとおり質問したいので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

平成30年8月22日
東村山市議会議長 あて

議席番号 18番
質問者 石橋 博

記

1、 児童・生徒一人ひとりに基礎学力の確実な定着を！

7月31日、例年より早く小学6年生と中学3年生を対象とした全国学力・学習状況調査の結果が文部科学省から公表されました。二学期以降の学習指導に活かすため調査結果の分析をされていることと思います。児童・生徒一人ひとりに基礎学力の確実な定着を願い、以下、質問いたします。

(1) 平成29年度の調査結果を踏まえ、東村山版国語・算数基礎ドリルを活用し、各学校では児童・生徒一人ひとりのつまずきを捉え、分からない所に立ち戻った指導を段階的に行ってきたと思いますが、この各学校での取り組みを教育委員会としてどのように評価していますか、伺います。

(2) 国語では、今回の調査で小中学校とも、「書くこと」に大きな課題がみられ、特に、複数の資料から目的に合った情報を抜き出し、まとめることが苦手であると識者の指摘があった。これまで市内児童生徒の「書くこと的能力」をどのように捉えていますか、伺います。

(3) 主語と述語がうまくつながっていない文を選択し、述語の方を正しく書き直す問題は、全国的に正答率が低かったようです。「書くこと的能力」を向上させるため教育委員会としてどのような取り組みが必要だとお考えですか、伺います。

(4) 算数・数学では、今回の調査では、答えを導く過程や根拠を理解しているかを問う出題が目立っていたように思います。問題を解くプロセスを重視した指導が必要だと思いますが、市内小中学校の指導を教育委員会としてどのように把握されていますか、伺います。

(5) 理科では、複雑な実験や観察を取り上げた問題になると全国的に正答率

が低かったようです。知識を伝えることに重点が置かれ、時間のかかる実験や観察が少ないことが影響しているのではないかと識者の指摘があった。市内小中学校の指導を教育委員会としてどのように把握されていますか、伺います。

(6) 昨年度の全国学力・学習状況調査で明らかになった児童生徒の学習課題を中学校区の小中学校教員が共有しているのでしょうか、また小学校6年生の学習課題が次年度中学校1年生の学習指導計画作成に活かされているのでしょうか、伺います。

(7) 基礎学力向上事業として、基礎ドリルの作成・配布だけでなく、他に基礎学力向上事業として今後教育委員会としてどのようなことをお考えでしょうか。また、児童・生徒一人ひとりのつまづきを捉えたり、分からない所を個別に指導したりすることができるよう教員サポーター増ができないでしょうか、教育長に伺います。

2、野口町地域集会施設の早期実現を願う。

野口町では、自治会、寿会の活動が活発に行われ、支えあい、助け合う町づくりが町民の努力により進められています。しかし、活動の打ち合わせ等を行う地域集会施設がなく、自治会役員及び第二寿会役員は困惑しています。自治会では、社務所を借り上げ打ち合わせ等を行っています。第二寿会では、カラオケ部、男の料理教室等の活動を隣町の地域集会施設を借りて行っています。支えあい、助け合う町づくりには、町の地域集会施設が必要です。そこで、質問いたします。

(1) 「野口町地域集会施設建設事業」の現在の進捗状況について、お伺いします。

(2) 建設予定地を変更する等計画の見直しが行われるのでしょうか、「野口町地域集会施設建設事業」の今後の見通しについて伺います。